東北工業大学地域連携センター紀要 EOS
Vol.31 No.1 p.31 ～ p.36, 2019

地域・産学連携プロジェクト研究
〔研究紹介〕

旧城下町・登米における歴史的建造物の調査と価値発信プロジェクト

中村　琢巳[1)]

Project of Research and Communication of Value of Historic Buildings in Toyoma

Takumi NAKAMURA [1)]

Abstract

The purpose of this project is research and communication of the value of historic buildings in Toyoma. This town is a rare area where traditional town houses, *Samurai* houses, temple and shrine buildings exist. During This fiscal year, we did survey of 12 historic buildings, such as drawing of the buildings or historical value evaluation. In addition to this survey, in order to show the outcome of this project to local residents, architectural models exhibition was held.

1　はじめに

宮城県登米市登米町は「みやぎの明治村」と呼ばれ，重要文化財・登米高等尋常小学校など近代洋風建築が群として現存する。その市街地にはいまでも，武家屋敷，蔵造りの商家，寺社建築が集積し，武家文化と町人文化が織りなす城下町に特有な歴史的町並みをいまに伝える。なお，江戸時代，仙台藩の城下は仙台であり，登米は「要害」のひとつであるが，景観特性を表現するため，ここでは「城下町」の呼称をもちいている。登米に現存する多彩な建物のなかでも，武家屋敷については，佐藤巧氏をはじめとする歴史的建造物調査や建築史研究の蓄積がある（佐藤巧『近世武士住宅』1979)。だが，商店街を形成する町家建築，あるいは上記のさまざまジャンルの歴史的建造物の関係性とその総体としての景観特性については研究が少ない。そこで本プロジェクト研究では，登米市の文化財行政と連携しながら，登米の歴史的建造物の価値を掘り起こし，その魅力を広く顕在化する事業を行った。

1）東北工業大学工学部建築学科 講師
Lecturer of Department of Architecture, Tohoku Institute of Technology



図１　重要文化財・登米高等尋常小学校



図２　蔵造り商店街の町家群

２　活動内容

２．１　町家建築の実測調査

本プロジェクト研究では，どのような建築的特徴や文化財的価値をもつ歴史的建造物が現存するのか，現況把握と記録化から着手した。第一の目標として，対象とするジャンルは町家を設定した。これは上記の建築史研究の蓄積が少ないことに加えて，東日本大震災以降，町家が連なる「蔵造り商店街」への観光客が減少傾向にあり，この町家の魅力の顕在化は地域貢献としても効果があると考えたからである。本プロジェクトでは 2017 年度に，次の３件 12 棟の歴史的建造物の実測調査に取り組んだ。

（１）町のランドマークとなる商家・海老喜

北上川に架かる登米大橋から市街へ入ると，まず目に飛び込んでくるのが味噌醤油醸造店の老舗である海老喜の建築群である。角地に立地する旧店舗をはじめ，住宅棟やさまざまな醸造蔵が群として現存し，優れた都市景観を形成している。本プロジェクトでは，味噌醤油仕込み蔵，文庫蔵，蔵の資料館（旧酒蔵），作業場，海老喜ホール（旧醤油仕込み蔵），住宅，旧店舗，表蔵の８棟の歴史調査，実測図制作，写真撮影による記録化を行った。



図３　海老喜の旧店舗



図４　実測調査の様子



図５　海老喜の旧店舗および表蔵の実測立面図

なお，この建築群は，この調査の成果物である図面や写真，文化財的価値の評価書を活用し，登米市文化財文化振興室と連携し，文化庁へ登録有形文化財への登録申請を行い，文化庁文化財調査官の現地調査を経て，2018年３月に文化審議会の答申を得ることができた。

さらに，2018年度現在の地域連携プロジェクト研究として，優れたロケーションを有する文化財建造物・旧店舗のディスプレーを，町並みでの回遊性を誘発させるようなコンセプトで，デザイン計画・制作が進行中である。登米での歴史的建造物の調査・保存・活用のモデルケースとなるよう，取り組みを継続している。

（２）近代の優れた土蔵建築・角田ふとん店

次いで，蔵造り商店街の中央付近に立地する角田ふとん店の土蔵建築も実測調査の対象とした。棟札より，昭和５年に建てられたことがわかる二階建ての文庫蔵であり，土蔵内に座敷をもつなど希少な形式で，近代的な材料や意匠を凝らした建築として高く評価される。この建物についても，平面図，断面図，立面図，展開図などの各種の実測図制作，写真撮影，歴史調査を行った。



図６　角田ふとん店の土蔵



図７　材料・意匠を凝らした室内

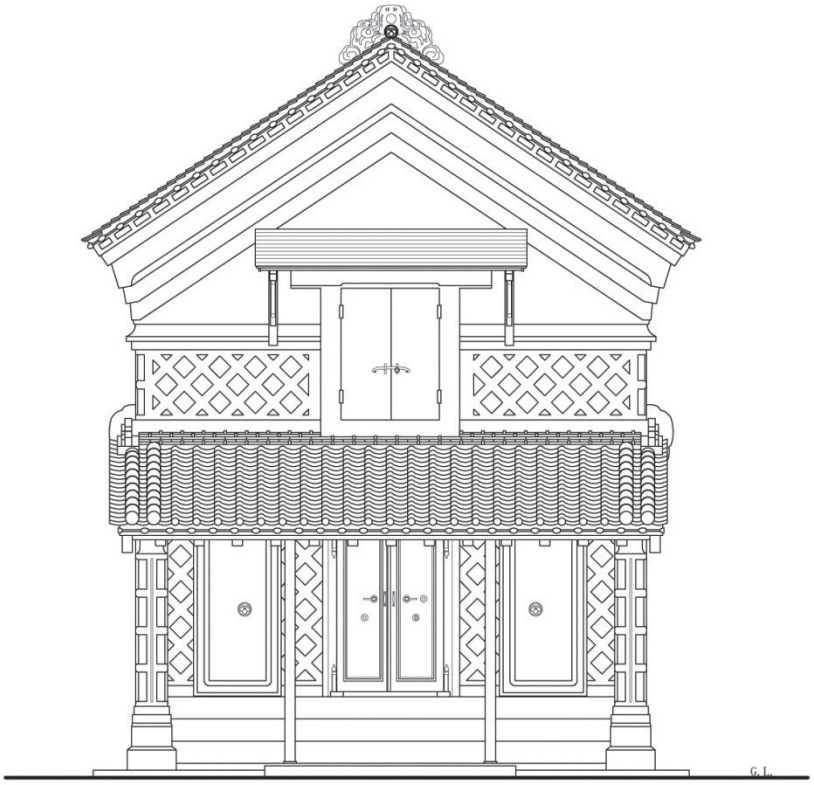


図８　角田ふとん店土蔵立面図

（３）伝統的商家の屋敷構を伝える菅勘商店

菅勘商店は，店舗と住宅棟に加えて，敷地の後方に穀蔵と文庫蔵が並び立ち，当地の商家の屋敷構えを良好に伝えるものである。敷地内のこれら４棟について，実測調査を行った。また各種の絵図や古写真も多く所蔵され，その記録調査も行った。



図９　菅勘商店の主屋と穀蔵



図 10　実測調査の様子

２．２　旧城下町エリアの歴史的建造物の分布把握

個別の町家建築の実測調査に加えて，同時並行で，旧城下町エリアに現存する歴史的建造物の分布把握を行った。住宅地図を確認しながら，対象地を学生がくまなく歩き，一棟一棟の建物の外観を確認し，およそ築50年を経過したと推定される伝統建築を悉皆的に拾い上げた。この作業によって，武家屋敷の門や主屋，町家の店蔵や住宅，板蔵や土蔵など，旧城下町の歴史的建造物の現存状況を網羅的に地図化し，調査研究を進める基礎資料を整えた。



図11　旧城下町の伝統建築の悉皆調査



図12　板蔵の観察

２．３　地域に向けた成果報告会の開催

これらの研究に加えて，建築学科中村研究室所属学生が，実測調査の成果を活用し，登米の町家や町並みを卒業設計や卒業論文として取り上げた。

こうした成果を地域の方々に還元し，地域の魅力をあらためて共有化することを目的に，2018年３月４日に成果報告会を実施した。「遠山之里」交流ホールを会場に実測図や歴史的建造物評価に関するパネルを設置し，卒業設計で制作した町並みや町家模型も展示することで，一般の方々にも建築の魅力が理解できるような会場構成を工夫した。当日，会場には東北工大学生と登米市役所関係者に加えて，30名ほどの地域の方々にご参加を得て，調査成果を教員・学生から発表し，また登米市文化財文化振興室長からプロジェクトに関するコメントを頂いた。さらに，地域の方々からプロジェクト研究に対するさまざまな感想が寄せられた。



図13　歴史的町並みの魅力の発表



図14　学生による研究成果の発表

３．プロジェクトの成果

単なる学術研究にとどまらず，同時並行で文化財への登録，プロジェクト成果のテレビ放映（NHK 番組「ひるブラ」2017 年 9 月 25 日付），展示を伴う成果発表会という「価値発信」の事業を進めたため，当初目的としていた調査と価値の共有化という目的は成果をあげつつあると考えている。とくに，町家や町並みの模型を地域の方々に提示した点はきわめて有効だったと思う。模型を取り囲み，地域の方々があらためて，建築や景観の特性に気づき，あるいは活発に意見交換する場がうまれたからである。

４．今後の展望

今年度のプロジェクトは先行研究の少ない町家をターゲットに進めた。一方，はじめに述べたように，旧城下町には近代洋風建築，武家屋敷，寺社など多彩な建築物が現存している。町並みの悉皆調査によって，広範な歴史的建造物の現存状況は概要を把握した。この成果を用いて次年度以降，これらの多彩なジャンルをどのようなまとまりとして価値をストーリー構築するか，文化財のネットワーク化について構想していきたい。そのためにも，本年度実践したような行政と連携した登録文化財の拡充を継続して進めるとともに，展示や報告会等を通した価値発信の方法についても，より一層の工夫を考えていく。さらに，前述したように歴史的建造物の調査によって文化庁登録有形文化財となった海老喜を対象に保存活用事業（ディスプレーのデザインおよび制作）も継続して進めており，地域の方々や観光客に町の価値を明確に視覚化することを目指していく。

謝辞

本研究は東北工業大学地域連携プロジェクト研究により推進した。調査研究に際して，各建造物所有者をはじめ，登米市教育委員会文化財文化振興室，とよま振興公社に多大なるご協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。